



の家裏に價三十金の假毛を買んた。金を直に残りあり。遍に
三十日を限り。数の少くゆき。と。辨ら。ゆき。主の
稀る。去年より己に成る。彼に遣ひ減らした。彼に價も三十
両あり。今これをゆき。その缺るを補ひ。厚倉へ返さる。公の
安ら。これを見。といひ。金を懐より。子三のい。さ
之三。大に飲ぶ。その。僥倖あり。是も。神の忠孝を神仏
の。恵。ゆき。昨日の夜。の燈。由
愁の眉を。開く。祥。神棚へ。掲。願を
え。といひ。火。比の昏。布。縁
頬。眼。点。子三の。建。揚り
押入の戸。厚倉が。贈。金を残り。出。

これを。遍。と。不相。預。の。夜
もち。と。睡。朝。た。その金を。奈。良。へ。ゆ
僧。志。を。厚。倉。へ。返。し。舊。の。数。を。ゆ
う。い。の。三。勝。へ。今。燈。を。夫。の。向。と。す
七。の。金。を。置。る。又。三。が。遍。と。す。財。布。と。り
出。る。と。眉。を。額。に。不。審。い。假。毛。の。價。を。ゆ
金。も。鏡。井。家。の。刻。印。あり。と。七。十。金。を。遣。は。さ。る
大。和。摺。る。旅。客。へ。厚。倉。二。郎。太。夫。あり。ゆ。彼。人。の。苦。を
知。る。假。毛。を。買。と。い。ひ。ゆ。び。を。懸。る。と。ゆ。い。ゆ
ハ。え。ゆ。ゆ。ぬ。瘦。商。人。の。價。物。を。後。ゆ。ゆ。の。金。を。ゆ
や。あ。ゆ。ゆ。果。は。感。ひ。搔。き。金。の。茶。蔭。の。花。の。ゆ。ゆ。面。あ



五八

五八

五八



五八

五八

五八

相合橋
三橋
北橋

そん七



全八席



そんろ



もののけ

えんろ

三橋と敷俣

もののけ

のうじり。假毛をえぬらんとうきふ。翌又来りてとむり。夏は迫れ
 生業も維がたよせんといひり。門ある女房も。それをゆる。轡を
 死あろ。従者ホを其処より。かきあへといひり。てて。裡
 よりし。二務は。ひうけね。顔より。瞻。て。いづら。と。請
 を。固辞も。上。居。つ。何。知。り。ち。の。あ。り。て
 訪。て。あ。ま。ん。門。中。へ。あ。り。や。と。い。ひ。荒。然。と。う。ら。笑。み。あ。り。る
 も。理。を。あ。り。ま。せ。ぬ。居。ぬ。と。飲。そ。の。強。く。は。る。が。舊。の。後。の
 大。拍。笠。を。二。務。と。あ。り。や。と。向。り。も。恥。く。空。ふ。く。家。の。二。務。は。こ
 ら。は。作。り。と。答。を。膝。を。す。め。一。つ。は。二。務。の。標。致。を。お。ひ。ま。り。て
 怜。れ。ま。も。と。ひ。や。れ。け。り。と。む。り。ま。り。の。は。不。審。ひ。ぬ。ん。て。ら
 身。に。被。さ。ぬ。あ。ま。不。忍。不。孝。の。人。と。い。ひ。赤。根。半。七。が。旧。男。大。和。國。流。井。家
 の。一。の。老。臣。蛭。松。典。孫。が。妻。よ。け。り。と。す。も。め。の。二。務。の。顔。板。す。は。何
 と。ま。く。裏。胸。を。押。し。て。と。い。ひ。夫。の。物。り。り。ま。り。て。す。ま。の。園。花。を。ま
 の。母。に。ま。り。ま。り。と。い。ひ。浪。花。の。声。も。枯。果。る。早。の。終。り。よ。ま。り。と。け。り
 の。の。故。ら。と。い。ひ。と。す。り。と。い。ひ。喃。三。務。と。い。ひ。大。和。の。老。臣。を。宍。小。和
 る。不。忍。淫。奔。を。責。罵。す。恥。く。や。ん。と。ま。り。と。推。す。り。あ。ま。も
 ち。う。ね。と。後。と。さ。る。筋。の。あ。り。と。い。ひ。情。の。思。案。の。外。と。や。ん。引。り。殿。の
 その。中。ま。て。誠。を。え。む。密。穴。味。も。ま。り。と。い。ひ。名。も。厭。む。あ。り。討
 と。い。ひ。居。ぬ。め。と。大。和。も。一。つ。は。え。う。ら。腹。と。り。と。い。ひ。の。外。ま。り。と
 其。の。園。花。が。夫。の。ま。り。を。お。ひ。て。近。属。も。顔。の。色。も。此。の。え。ま。り。は。女
 が。長。し。と。い。ひ。と。答。を。ま。り。と。い。ひ。始。ら。り。の。あ。ま。り。も。ま。り。と
 の。七。年。置。去。ま。れ。る。が。親。の。諫。も。聽。納。ぬ。長。た。病。並。と。ま。り。と。い。ひ。

院の川のまゝ親子一人が袖の雨淵渾とつりぬ敷たあり。且して三指の胸前
 を拵けし。三才の年より列れりて面敷の繕らねど名昔の**木櫃**を割
 符と夢との遠きまを存命あひまひとて飲ひあつめ。とり口鏡
 かの後いひて面をた風後よと。ちねゆとて外がうく。ひつり子の悔し
 さまよとてがし瘡を押放る。懐よりとつと。披の片割をひとちよ合し。あひ
 出もりく年を。前夫の浪の便あねさまよ。三才のときふ乳着を放し。夫抱
 倦ぬ列れ。ち身の浴より。ちうと後ハ夫や子の往方何國とさうさうれ。
 さこの夢くひあね人の。数よさのうあひ。うさの何比と。何母も向る。甘
 児もろろとも胸あつて。頭ももあつて。いれげとようか父の盲目と
 ろりく髪を剃いとさうりげあね琵琶法師。名も丹波都と更めて。伊勢
 四年の僑居其処よさ。住むつ。其身の在処を訪んと。さうのをむて首途
 へ。さうぐ。隆よりあめ。是あん元出のやうと路ま。山見の芥よ移れ。非命
 よ世を去ぬひたる。首尾の箇様こと。羊六が。稀の孫が。奈良と格の
 一五十一を物語れば。後浪のつが子小羞る。身の幸福後や。神衣たさ
 ち。さうの襪緒の裏く。た。さうの逢よ。ちりて鈍くも。缺たる。婦の道
 夫よ初ゆ。そのまよ。格へのよりねれど。給く。せん。ちか。ちあ。大和あ
 流井家の。老后。機軸。曲。作。との。人の。内室。世を。早。跡。よ。送。れる。稚。児。よ
 乳母を索ると。あて。る。は。乳。汁。の。個。ざる。を。さ。よ。大。和。一。処。た。獲。て。その。家
 よ。ま。よ。て。守。育。なる。の。る。を。さ。う。ち。あ。て。ね。な。し。消。息。し。さ。身。南。都。す
 ある。う。を。夫。の家。へ。告。す。り。か。夫。の。近。曾。女。児。を。推。乃。襪。は。ち。と。り。性。分
 ち。れ。ど。と。て。後。よ。居。ね。東。路。より。あ。さ。び。戻。る。文。卷。川。の。さ。さ。み。水。さ。ら
 と。ま。あ。ら。ね。ど。典。借。よ。よ。不。國。と。ら。れ。一。夜。あ。ら。夜。の。添。外。よ。と。や。く。も



世上
萬般哀苦
無非死別與
生別

師走の
生別と

養父隠居



元相

かき

長野みのや

日本橋

賊とつらぬも。登壇あり。且己とせゆとつらぬも。尊余氏よりいつることを

食ふ。その七年が程川身とりたる世の営をぬ。刺身價を返さる。

これい見乱離のへ。竹をりく。た炎といわれんと。もわくてもす七が死

べた。今宵あり。とんぼと。さあて自害せむ。平三とのと。係累せん。歌。彼

青山の酒あり。と。そのの。殫を千日寺の。草の原よて。死よる。と。己あん

己あん。といひも。果む。と。たり。と。と。夫の裳を。二。傷ハ。慌忙て。引。ぬ。

ふを束。絞首。刎られ。主親の。面を。汚ん。り。自殺せん。と。いひ。定め。た

そふを。理。あ。と。いひ。ゆ。り。ね。ど。り。つ。せ。よ。と。と。ゆ。え。あ。い。て

あ。と。と。と。二。勝。を。い。ひ。た。り。の。う。い。あ。ひ。つ。る。今。宵。よ。迫。る。身。の。憂。を

彼。如。も。て。突。あ。り。と。や。と。い。は。ら。う。の。か。き。と。伏。し。君。が。年。末。の。情。よ

答。け。り。と。ん。と。いひ。も。終。ら。ど。夫。の。刀。よ。ま。を。樹。を。す。七。言。は。押。ら。ぬ

びよ。い。懐。ぬ。儒。め。先。と。を。あ。も。厭。ハ。夫。婦。が。と。も。厭。ふ。て。あ。い。る。今。こ

そ。身。も。つ。が。も。よ。う。い。く。志。を。改。ま。と。べ。し。只。悔。し。た。の。向。け。よ。と。ゆ。え

と。と。平。三。と。い。ひ。誠。心。を。地。よ。ま。る。の。面。目。も。死。と。身。を。恨。と。を。理。み

と。二。勝。り。と。う。ら。は。ら。う。有。身。の。親。類。親。と。親。ハ。夥。り。と。あ。ら。う。行。れ

と。い。れ。と。と。た。ぐ。た。思。を。仇。あ。る。身。の。終。り。と。一。筆。送。さん。と。と。り

硯の蓋及。一。思。ハ。曲。と。と。直。あ。る。管。の。筆。を。と。ら。と。硯。に。浸。し。

出。辰。の。障。子。よ。あ。く。む。ら。り。

夫木集信史朝臣
と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

と。書。寫。せ。ば。す。七。も。多。く。も。お。守。を。と。り。と。

て人を殺りませ七を搦捕らんかよふ向たり。縛受ふといはせられく。
跳るるを引殺死。雄多雌多。撲地と投るを。飛踰る又組着を。ゆり
掃ひて打倒し。とらふとと投退て。秀あへとくませり。妻のよまを
引きり知る。月より暗死諸打た。か門近くゆり来る。卒直とゆさ
らぐい。えりりて。その三搦強皆どのあめりせや。と問隙も荒男の。
兵士ホが葛葉よませ七を。と追蒐出。先よすしを卒三が足殺れ
し。丁と蹴倒し。統て懸るを。とらふ引布。さうまりせよ。とゆめよ
られ。無もや。と。堂を合し。ゆ。ゆ。と。妹と夫が。又よまをとりて死
かゆ。今宵一夜。千日の墓るたりの命あり。

千日寺の証

さてもませ七の勝の往末。後をゆほども。彼此を。夜を。除。涙の雨あり。

さそけ。ひ。そ。ま。れ。夜。の。傘。を。入。前。を。ま。の。ぐ。も。月。の。雁。の。ゆ。り。ま。ん。竹。田
伏えも外よ見え。只。後。髪。を。け。そ。の。町。を。雄。ひ。は。取。味。道。田。毎。星。の。氷。氷。の。氷。
捨果。ま。る。た。の。の。と。あ。り。と。寒。北。風。は。追。れ。西。を。の。む。る。師。支。七。日。を
亡。日。と。い。ふ。ま。の。も。ろ。ろ。の。跡。は。残。り。稚。児。の。又。母。と。啼。る。春。の。な
らん浪花津の梅が。益。益。と。養。虫。の。親。の。か。鬼。の。と。黄。金。も。玉。の。竹。の。見。子
よ。久。宝。の。た。の。を。そ。れ。今。の。ひ。絶。る。喜。怒。哀。樂。も。ま。の。後。の。世。と。い。れ
い。ま。醒。ぬ。向。酒。者。賣。夜。商人。が。為。る。ね。ど。寒。念。佛。の。証。の。音。之。何。と
る。耳。の。な。る。霜。の。声。常。迅。速。束。の。間。千。日。墓。は。ま。る。時。は。永。祿
某。の。年。冬。十。二。月。七。日。の。ひ。て。ませ七三搦。ハ。立。る。と。印。塔。の。回。る。枯。柳。の
下。よ。ま。を。た。ら。う。く。覚。放。を。究。る。ハ。夫。婦。物。の。づ。う。も。あ。る。三。搦。が。十。遍。を。ひ。り
唱。る。念。仏。の。音。を。ま。め。ませ七。ま。る。圍。は。異。く。腰。の。刀。を。抜。る。ま。る。墳。の。後。よ。又

二人苦痛の称名今叙とあり。夫婦はらんをばく大に怪しむ。等しく又この
 事。自殺する人の。女後まらしておせむ。ゆさび及をより揚せ。かよふ
 杖多くと呼ぶ。厚倉二郎大夫友春の。賤松曾太郎ととも。蝶九郎は
 素直をうけてこれを可ぬ。ホムリ。飛が妙はまう。跡は続く。平三は。通を脊負
 ひ。室を扶掖。喘く。追鬼。亦く。ゆみく。こ。出を挑灯の火光は照く。と墳の
 後。よ。ひ。も。う。げ。と。妻。娘。と。す。六。も。間。五。七。尺。を。隔。く。自。害。し。半。七。赤。を。見。て。忽
 地。は。絆。切。り。人。も。う。の。景。迹。を。見。る。大。驚。た。夫。婦。兄。弟。幼。れ。お。通。も。共
 み。よ。と。位。式。ハ。悲。し。或。ハ。呆。れ。こ。の。も。の。ゆ。み。と。慌。忙。つ。走。り。あ。抱。死。記。し。く
 こ。ま。ぐ。小。勲。と。も。今。ハ。イ。や。救。ふ。べ。く。の。ゆ。み。と。い。は。備。る。石。塔。は。二。枚。の。送。去
 を。賄。ふ。と。う。その。と。は。二。郎。太。夫。と。對。す。半。七。赤。よ。い。は。各。の。名。傷。つ。と
 理。多。れ。ど。つ。く。の。送。書。の。記。を。見。る。赤。根。半。六。昔。深。利。を。謀。り。七。赤。根。の
 崇。を。肩。と。せ。て。遂。に。米。谷。を。老。補。樹。を。伐。り。く。か。心。地。恨。く。丹。波。都。を
 叙。一。更。は。狗。と。も。む。さ。さ。三。勝。を。失。ひ。賤。松。氏。と。智。縁。を。結。し。る。ゆ。み。と。う。さ
 ぬ。藤。子。う。う。と。曉。う。う。近。曾。半。七。ハ。三。勝。を。ぬ。く。長。町。ハ。信。業。と。傳。へ。す
 い。憤。は。堪。が。ら。その。虚。実。を。あ。ん。為。よ。昨。夕。潛。は。五。條。の。家。を。潛。び。出。衛
 二。表。浪。と。三。勝。と。親。子。の。名。告。せ。始。終。を。竊。せ。て。そ。れ。を。夫。婦。の。忠。孝
 公。烈。を。あ。つ。く。懺。悔。後。悔。し。ら。ま。つ。く。自。殺。する。ゆ。み。と。預。け。三。條。竹。原。あ。つ。く
 二。人。の。悪。根。を。叙。し。又。昨。夜。相。合。摺。あ。つ。く。全。八。を。叙。せ。り。ゆ。み。と。市。の。正。へ。所
 恩。人。笠。松。半。三。と。う。か。子。半。七。を。救。ひ。ゆ。み。と。あ。り。又。表。浪。の。送。書。ハ。二。人。の。女。兒。が
 公。標。の。比。ま。た。ふ。り。妻。且。三。勝。が。死。を。究。る。氣。色。を。精。し。か。か。れ。又。立。て。自
 害。と。れ。ハ。子。共。ホ。心。死。を。あ。ひ。さ。さ。り。厚。倉。良。也。ハ。夫。を。縛。り。氣。彼。の。身。の。あ。ま。り。を。死
 計。の。ゆ。み。と。も。孫。の。お。通。が。不。便。う。り。典。儀。と。の。年。外。の。恩。也。ハ。口。づ。つ。は。耻。づ。る



二島大夫

死にぞとて

芳名

字三

南三

石

石

新

石

石

石

石

の夫婦君父の命に従ひ奈良へ戻りし家をも與へ忠孝を全せし吉原
 の二大怪りありんと應多の時典儀又平三の討ひ其許の舊梨園雜劇
 中の人ありとやがたふまの武士も及ぶるふ妻とてか女兒園花久く夫を置
 去りしれりなとさうりひ辺今より彼を養ふ女兒とあゆめつれ又三務
 を養ひ曾太郎が姉とて更はず七は妻のふとて。ふるとたの三務はまて正
 室より園花又七が側室とるも姉妹あり姉妹のふれ孰れを殺
 らばとてのふ兼川ゆりゆりへ平三飲み一浅みも及ぶ時既に團圓はあこよ
 せぬる祝ふは七曾太郎三務を元へ兄弟親族の名對面して歎の中飲を
 連父母の亡骸を十日寺に葬りて追善の佛を町嚙又終り志じて後
 皆うちほとさうり南都へ立ぬるぬ又曾太郎の市の正へ縁故を審み新蝶
 九郎を進つたやうが積悪後かくて蝶九郎の首を刎らるる又立松平十三と

曩は脚平足平を殺しこれども彼亦二人の隠るを思掘るふあつて死をり
 そが罪を贖ふ及ぶと永く赦免を蒙りやう徒井家よるれり初五十
 貫をぬり亦根半六は代りて五條の村主をうけぬりお七は蝶松典儀を
 代りて家老職をうけぬり職禄とて肩を比るりのなりとれりて三務を
 妻より園花を側室とて厚倉と共一團の成敗をとりけりよ聊もれり
 ぶが君家とさうり敏昌とて四民とて又母のちひとさうりてとてあつたし
 たり先徒井順眼又子の守七三務亦が忠孝をふく嘆賞して懇切に
 たらを勞ひ厚倉以下の家臣を咎む集むのふやう抑との件の縁故を考
 らよつれ過る驕奢を恥り怪右の良材を委る米谷の楠を伐ら
 び蓋の茶亭を造りて樂を民とてもみせとてをりて嫡男吉推賢
 弱母病ありれば且彼が養生の爲に俗はたふに至る心地家老の難生

まんとつる。まの木精の崇ありん後守七郎太夫ありんせや又子安と
あつ今日の教會をいふ。まどあつと頻に慚愧し俄に彼茶亭を
毀てそ節儉をとりとせり。上下安堵のあひをまつらみ至るまて七條路
吉稚丸は苦練せり。却全八端九昂亦は讒言せり。久しく君辺を遠ざけ
らる。とりての。母昂君の恨をせよ。せよ。病ふる。五條小退保艱
まといひ被(後)終は三務平三亦も実を告ぐ。まといひも口外せり。
中使えの二條あり。その忠をひやうと。時の人稱賢せらる。はこれぞ
平三の通を養ひ。後これみ婿を招き家を嗣し。まて又子も駁を儲る。
世々流井家みはる。と。馬琴按ざる。本草綱目卷二十四木類下。楠樟
を並出せり。別種あり。邦あり。楠樟ともふ。と訓どられを一種と
とる。まて。又按ざる。被神記は吳の時。敬叔大樟樹を伐り。血あつ物あり。

人の面狗身あり。敬叔のこれに彭侯と名つ。と。乃烹く。これを食ふ。味狗
の如し。是則樟樹は木精あり。一澄と。楠樟も究る。大木也。
俳諧師其角が。楠の天井は額を發向あり。徧る。

八疊の楠の板間を漏るふぐれ

又守七三務。か。の。母。あり。ま。て。ふ。ひ。あり。或。の。ひ。益。屋。三。務。の。足。利。家。の。時。の
女。伎。あり。又。午。日。寺。あり。暗。死。せ。三。務。の。遙。は。後。の。つ。あり。美。濃。を。何。が。女
見。ま。え。と。ま。ま。て。の。淫。婦。あり。今。の。世。お。ま。ま。七。が。送。書。と。い。ひ。の。り。好。の。の
の。往。く。信。写。と。あり。の。平。が。活。説。と。る。統。井。家。臣。赤。根。と。七。と。大。和。五。條。の。商
人。守。七。が。の。と。く。似。たり。ま。て。の。時。代。相。拒。と。遙。め。り。同。名。異。人。あり。と
ま。て。の。玄。峰。集。を。按。ざる。は。俳。諧。師。嵐。雪。の。三。十。の。秋。浪。連。と。お。ひ。の。り。
み。の。倉。苗。が。ま。の。の。を。訪。ふ。嵐。雪。月。照。と。石。の。塔。は。女。の。彫。入。り。ある。や。と。れ

ふみふみねどとひうげさうけいせが

夢ふくく似せたる夢夕那墓糸り

と口辨るるふくえぬ 惜しうい物のふと 今法音寺 難波新地あり王俗 遺るころ

のま七をえんが古墳といふりの金毘羅堂のころる向く左側よあれは六字

の名号のを彫著より彼めらるるを傀儡棚の戯曲に似りたるもの予が

眼を過さふとて四本あり又彼ホか送書當初人口は膾炙せりや

賦竹といふりのよ三勝まてが紀念ありうを置ホの曲子ありや黄乃

辨るれど只その槩略をいふのみ

作者馬琴との書を稿にをりるの夕燈を掲案を拵しむる

嘆く云む信濃前司の長入道の平家物語の原稿せんと

く他りころ後の人へくゆえざれば只尋常の軍記といふ

めり今こそ南柯夢の讀せんとも他りこれと際者その戯曲めり

たるを笑ふものべり才の長短と物の巧拙は且くいれど亦為り

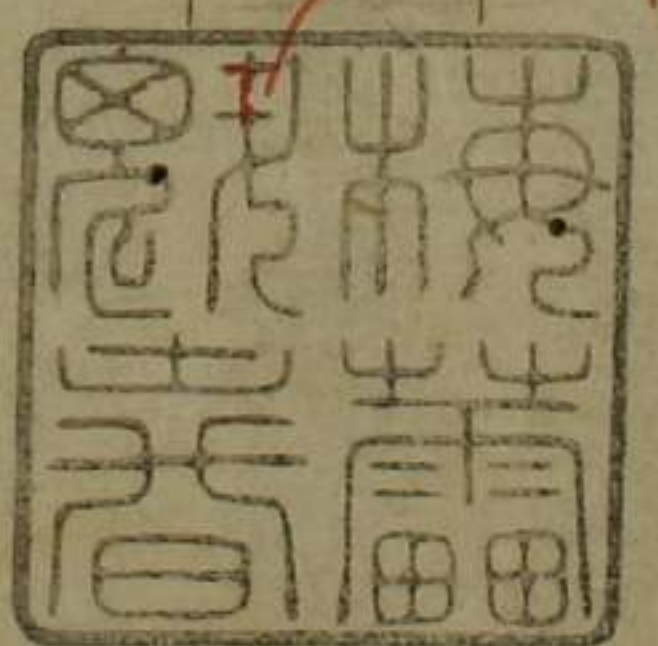
雅俗あり又流行あり夫流行の人よある教お我よある教これい

これをあつて師とせられは蒙べし差夫

本

客有問於予曰曲亭先生何握孺之曲亭
予應之曰漢書陳湯傳云樂巴樓曲亭陽
是矣亦向馬琴何也曰取十刻鈔野亦公
句才非馬卿彈琴未能身異鳳史吹笙獨
拙以爲我孺也先生嘗慕司馬亦如才
是以名解字頊吉解蟹也郭璞江賦云頊
背腹蟹水母目蝦甘象名於蟹也王吉之
所夢亦足長也故事也宍然爲喜曰吾
哉典君一夜結勝似十年學云思問常以
爲馬琴熟字強考據而今問諸子則竒
然得其淵源顧昔者司馬長也慕蔭相如
爲人浪名相如今也曲亭子慕司馬亦如
才而名解稱馬琴以哉雖和漢今昔異
其趣宜同年而終之先生聞之嘆曰二子
蓋知彼去與石而終暨于茲也嗟夫似而
非之者寧魯曾參字我居二子深羞之復

莫言客唯_ト而退_テ予_ニ時_ニ方_ニ東_ニ海_ニ余_ニ校_ニ南_ニ柯_ニ
 夢_ニ若_ニ干_ニ空_ニ因_テ應_テ次_ニ是_ニ世_ニ於_テ第_ニ後_ニ知_ニ
 文化四年乙卯冬十月_ニ中_ニ院_ニ女子_ニ東_ニ園_ニ魁_ニ
 蕾_ニ子_ニ書_ニ於_テ東_ニ都_ニ兼_ニ堂_ニ軒_ニ時_ニ雨_ニ窗_ニ



心志 曲方亨子琴



魚工 為修小每



割劇 高橋 待人

俊寛僧都嶋物語 全六冊

阿深久松傳秋七種 全五冊

桂華經波新語

瀧口横笛想夫憐

梅川忠吾衛大和紀行

糸櫻赤繩奇編

右曲亭先生近日著編題目以今所聞録十之二兩人琴

○辰五春發兌木蘭堂綉梓書目

五條半七節撰全傳南柯夢曲子主人著全六冊

阿波北鳴門種彦著全五冊

北齋馬著全五冊

江戸書肆 須原屋市兵衛

文化五年戊辰正月吉日發販

溪川森下町 榎本惣右衛門 榎本平吉梓

